

# 「慰安婦」問題をめぐる 運動史と今後の課題 ～ 今、なにをすべきか ～

講 師：やました 山下 よんえ 英愛 さん

《 立命館大学非常勤講師 》

1993年世界人権会議のウィーン宣言で、「女性に対する暴力は女性への人権侵害である」と宣言されました。戦時下、日本軍による性暴力被害にあった韓国をはじめ多くの国々の女性たちの苦悩や怒りの証言は半世紀もの沈黙をやぶり、国際社会を動かしました。運動を振り返るとともに課題を確認し、私たちに何ができるかをともに考えてみましょう。

日 時： 2010年 3月 20 日(土) 午後 2 時～4 時半

場 所： 豊中市立男女共同参画推進センター

すてっふ・セミナー室

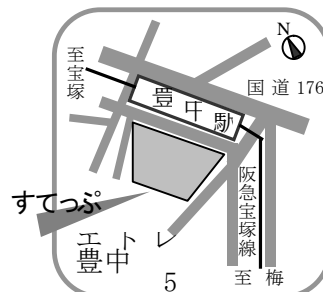
豊中市玉井町 1-1-1 エル豊中 5 階  
(阪急豊中駅すぐ西側)  
Tel 06-6844-9772

参加費： 500円 ※事前申込は不要

主 催：(社) アムネスティ・インターナショナル日本 「慰安婦」問題チーム

「慰安婦」問題の解決を求める北摂ネットワーク・豊中

(連絡先 080-6185-9995)



## 講師紹介

### 山下英愛 (やましたよんえ)

1959 年生まれ。日本人の母と在日朝鮮人の父との間に生まれる。津田塾大学 (国際関係学科) 卒業。同大学院を経て、韓国の梨花女子大学大学院女性学科で学ぶ。博士 (国際関係学)。90 年代の韓国で、日本軍「慰安婦」問題解決運動の活動に参加。

著書に『ナショナリズムの狭間から－「慰安婦」問題へのもう一つの視座』(明石書店、2008)、翻訳書に、韓国女性ホットライン連合編『韓国女性人権運動史』(明石書店、2004) など。最近は、韓国ドラマに関する講演なども行っている。

\*\*\*\*\*

1930年代初めから第二次世界大戦の終結まで、日本・朝鮮・中国をはじめアジアの多くの女性たちが日本軍の「慰安所」で性奴隷として働かされました。1990年に韓国の女性たちがこの問題を提起し、翌年、金学順 (キムハクスン) さんが元「慰安婦」として名乗り出たのをきっかけに、アジア・太平洋地域の多くの被害女性たちが声を出し始めました。日本政府は1993年、第二次調査結果に基づき「お詫びと反省の気持ち」を表し、1995年にはく女性のためのアジア平和国民基金を発足させました。しかし、日本政府の公式な謝罪と賠償という形ではなかったため、多くの被害者や支援団体から批判され、受け入れられませんでした。

日本政府は、あくまでも条約を盾に、日本軍「慰安所」制度の被害者に対する誠意ある対応と、再発防止に向けた取り組みを拒み続けています。これに対して、2007年7月以降、米国、オランダ・カナダ・EU・台湾・韓国が次々と議会で、日本政府の誠実な取り組みを促す決議をあげ始めました。国連人権機関も繰り返し日本政府に対し勧告を出しています。

こうした国際的な動きを受けて日本国内でも、2008年3月の宝塚市議会を皮切りに、近隣の箕面、そして清瀬・札幌・福岡・三鷹・小金井・京田辺・生駒・泉南・国分寺・長岡京・船橋・国立・田川など、合計15の市議会が、日本政府の誠実な対応 (真相究明、尊厳・名誉の回復、謝罪、賠償・歴史教育、国会での決議・公聴会開催など) を求める意見書を採択しています。

当時の加害を無視し続けている国に暮らす私たちは、今後の再発を防ぎ、平和な社会を作ってゆくために何をすればよいのでしょうか。被害者たちが高齢化している今、誠意ある取り組みを求める私たちの声を、地元の市議会、県議会、そして国会へと届けて行きましょう。